

千葉 あいご

Vol.
89

Index

- 1|2|3 令和6年度自立支援セミナー／齢を重ねて～輝き続ける～
- 4 リーダーパワーアップ研修会
- 5 地域支援部会 管理者・サビ管理研修会
- 6|7 わが施設の自慢・アピールポイント⑦
- 7 「第52回手をつなぐ作品展」を終えて
- 8 千葉知協トピックス
- 8 事務局だより・編集後記



協会公式Instagram▶
フォローお願いします。

CHITEKIYO

第89号 (2025年3月号)

発行日：2025年3月20日／発行者：里見吉英／編集者：畠山正昭・菅谷大輔・成川 真

発行所：千葉県知的障害者福祉協会

[本部] 千葉市中央区中央3-15-6 山長(ヤマチヨウ)ビル4F TEL 043-224-5721 HP <https://caid-net.com/>

[事務局] 船橋市金堀町499-1 大久保学園内 TEL 047-457-2462

令和6年度自立支援セミナー 齢を重ねて、輝き続ける

令和7年2月15日、千葉県教育会館において自立支援セミナーが開催されました。(480名参加) 今回のテーマは「齢を重ねて、輝き続ける」とし、知的に障がいのある方の高齢化を悲観せず、もっと前向きに捉える支援を実践している2法人に発表していただきました。後半はピアニスト辻井伸行さんのお母さま辻井いづ子氏より「子どもの才能の見つけ方、伸ばし方」の講演が行われました。

開会挨拶

千葉県知的障害者福祉協会 会長 里見 吉英 氏



里見会長挨拶

今、障害者福祉でいくつか懸案になっていることがございます。ひとつは恵グループの件です。今まで表に出てこなかったところを問題とし、フォローしていかなければいけません。次に入所者の高齢化です。ほとんどの施設で問題となっていることで

しょう。協会としても早急に対応していかなければいけないと思っております。最後に強度行動障害の方の生活の場をどうしていくか、これも大きなテーマです。強度行動障害と言っても様々、施設の構造的な問題もあります。これらの問題に対応していくなかで、それに応えていけるようにするには人材確保も必要です。

行政はそのような状況を理解してくれているので、福祉の魅力伝えるために協力してくれています。最後に、人材確保や高齢化も含めて、行政の力を借りながら、みんなで協力し今後も進めていきたいなと思っております。

福祉施設を利用するご利用者様の 高齢化をどう支えるか

北総育成園 施設長 白樫 久子 氏

北総育成園は50年前に開園し、現在は船橋の指定管理を受け障害者支援施設として入所支援・生活介護、短期入所、相談支援事業所を行っております。まずは北総育成園の歴史と活動のご説明です。北総育成園は、昭和29年の船橋の手をつなぐ親の会が発足したことから始まり本部は船橋市内です。その後、昭和49年に東庄町に定員50名で開園いたしました。当時は旅行や演劇の公演などにも行き、旅行ではハワイや万里の長城など海外に行ったりもしました。昨年は創立50周年という事でお祝いの会を行い、今年の1月には地元の旅館で新年会をしたりもしています。前園長が北総育成園の心構えという事で伝えてくれた言葉が『毎日初心で一期一会、一輪の花、難しい専門用語、法律用語だけでなく、日本人の大和言葉で、わかりやすい言葉で深い思想』という考えです。まず利用者さんや職員の顔を立てる、折り合いをつける、立つ瀬をのこす、共に働き共に育つ、個々に寄り添う環境を整える、思いやりと助け合い笑顔を大切に、履物をそろえよう、そしてこの人たちの役割と出番に付加価値をつけたいという事でやっております。次に作業活動の紹介です。今、7つの作業班があります。農耕班は畑仕事をしています。木工班は磨きの仕事が多く、杉板を磨いたりひょうたんを磨いたりしています。手芸介護班は裁縫をやる方、また塗り絵をやる方が増えてきています。園芸班は鉢物栽培、シクラメンや観葉植物などを作っています。紙工芸班は和紙を作っており、林



会場の様子

産班は椎茸の仕事をしています。あります。ありのままにそのまま、もともと農耕や陶芸や園芸班でやっていた方が介護が必要になり、受け止めようというところで、今はウオーキングやひょうたん磨きやゲームなどをやっている作業班です。これまで作業を50年やってきたのですが、これからの大きな課題もあります。まず、年齢層の違い、生活歴の違い、障害の違い、支援度の違い、価値観の違いがでてきます。職員も若い職員が増えてきました。そうしたことを含めて、これからどう北総育成園が作業をやっていくのかなということが課題になっています。みんな違ってみんないいだけでは解決できないけれども、やっぱり違うという事を大切にしたいと私は考えています。今できることを大切に役割の出番のある暮らし、共に働き共に生きる利用者さんの健康と安全と楽しい暮らし、職員の働きやすさとやりがいのある暮らし、私はこれらは同じゴールにあるべきだと思えます。やり方は施設や事業所では違うけれども、ここを大事にして仕事をしたいと思っています。それにはやはり毎日お互い感謝の心と言葉を大切に出していく、そして入所施設だからこそ出来る支援の強みを発揮していきたいと思えます。働くこと、生きることはお金を稼ぐことだけではない、豊かさ、文化、楽しみ、ユーモア、ここを大切にしていきたいなと思っています。職員の仕事は環境を整えることです。職員も環境の一部だという意識をもちたいなど、普段職員ともお話しして

います。今できることを大切に、年を重ねることはそれだけで本当に素晴らしいこと、そして職員も一緒に輝いて生きていきたいと思っています。

福祉施設を利用するご利用者様の高齢化をどう支えるか

グループホーム野栄 地域支援部長 島田 正仁 氏

のさか学園は昭和43年に開所しております。居住系サービスとして入所施設が2か所とグループホームがあります。他にも通所系のサービス、放課後等デイサービス、相談支援事業所、このようなサービスを運営させていただいております。昭和43年4月に50名の入所から始まって、今年で57年目になる法人です。今回はグループホーム事業について説明をさせていただければと思います。グループホーム野栄で運営している事業ですが、4名の定員で8つの住居があります。高齢期の支援から強度行動障害の支援と、幅広いニーズに日々対応させていただいている事業所です。ここからが本題となりますが、グループホームにおける高齢期の支援について3つのテーマをあげさせていただきます。まず、使いたいサービスを自ら選択して気ままに暮らす方についてお話をさせていただきます。私も思います。Nさんは長い間、事業所を数ヶ所変更しながら自身に合う事業所を探しておりました。ですがなかなか見つからず、令和4年にやっと自分に合う事業所に巡り合えました。その中の取り組みで見えてきた事があります。まず、サービスを自ら選んだという事。あと、かわる事業所が増えることにより必然的に支援者の数も増えていき、人と多く触れ合うことで若さを保っている、そんな印象を受けました。一方で自由な暮らしをサポートするための課題ですが、利用する事業所が増えることで事業所間の連携が難しくなってきました。あと金銭的な問題や経験の乏しさと選択肢の狭さです。年を重ねてからでも経験はできるのですが、若いうちから意識的に取り組んでいくのが大事だと感じました。次にコロナ禍がもたらしたものです。パン

デミックの3年半という時間を考えた時に、高齢期における3年は重くこの月日の中で身体的な変化も多くてきました。コロナ禍で今この時を大切にという事を改めて考えることができました。続いて、望む暮らしをチームで支えた方のお話です。Sさんは68歳で大動脈瘤が見つかり71歳の時にいつ破裂してもおかしくない状態だと診断を受けました。保護者は手術をしないという選択をし、本人は今まで通りグループホームで暮らしたいと希望されたので、看取りを前提にした生活を始めることにしました。共に過ごした経験から私たちが得たものは本人の思いと向き合うことです。望む暮らしを支えていくには、今あること今あるものに利用者さんを合わせるのではなく、こちらのあり方を変えていくことが大事だと思いました。あとはパツクアツク機能の重要性です。法人が丸となって支えたことで望む暮らしを提供できたのだと思います。最後に、私たちが日々仕事をするうえで意識していることがあります。まず明日はないぞ、今全力でやりきる、疲れても頑張るんだということです。次に降りてく支援です。若い頃は向上を求められてきましたが、高齢期は日常の充実というものを大切に生きる生き方へシフトしていくのが大事かなと思います。最後は人生の最終段階に関わらせていただいている喜び。終わりは良ければすべて良いではないのですが、最後は本当に野栄福祉にいてよかったなと思えるような支援を提供できるように日々精進していこうという事を取り組んでいるところです。

親の終活勉強会「親の想いをつなげる為」

一般社団法人 親泉会 代表理事 田村 紀子 氏

一般社団法人親泉会は親たちが中心となって立ち上げた障害をもつ子供たちの成年後見をするための法人です。まず法人理念が、社会福祉法人嬉泉との信頼関係を前提として「親の想い」を引継ぎ、本人たちの生涯にわたるより良い生活を目指すこと、本人の立場に立った本人のための後見を行うこと、個人の生活や権利を守りながら、個人の利益を超えた共同の福祉の

向上を目指すことです。以上が法人を立ち上げてから大事にしている理念となります。次にテーマにもあります親の想いをつなげる為に行っている7つの活動をご紹介します。①「親の想い」のファイルを作成して、親・親泉会・施設で保管し情報を共有する②親・親泉会・施設の三者面談を実施する③親の死後親の想いが我が子に繋がるように遺言書の作成などをする④本人たちの高齢化に伴う問題について他施設を見学、医療の専門家の話を聞くなどの勉強会をする⑤嬉泉の支援を学び我が子の幸せについて考える⑥親の高齢化に備え親との任意後見契約、委任契約を法人の事業に加える⑦頼れる親族がいない親を中心に弁護士を招き「親の終活勉強会」を行うということです。成年後見制度の大きな問題として医療同意に関する事等がありますが、現実的に被後見人さんも病気になることも判断に迷うこともあるわけです。今後どのようなことか分かりませんが見ていきたいと思

います。



実践発表 3名

子どもの才能の見つけ方、伸ばし方

辻井 いづ子氏

(ピアニスト辻井伸行さんのお母さま)

息子の伸行が誕生して医師から全盲でしようと言われていた時は非常に悩みました。何が一番つらいかというところ、きれいなものを見た時に彼に見せることができないうと思つて涙が止まらなくなってしまう、そんな毎日でした。それでも何とかかしくなくてはいけないう思いで、とにかく前向きに気持ちを切り替えてい



辻井 いづ子氏

うと思えました。そんな中、私の気持ちも明るくしてくれたのが、福沢美和さんの『ブックス』という一冊の本を読んだ時に受けた印象が、

目が見えないという事を全く感じさせず生活を楽しんでいるなどということでした。福沢さんにお礼を録音したカセットテープを送ると、お会いすることができたので息子の相談をしアドバイスをいただきたいと伝えたいです。そして「普通で良いと思う」「目で見えなくても、触ったり匂いであつたりいろいろなことで感じられるから、視覚以外の事であなただけで伝えられることは言葉で伝えてあげて、そうじゃない事は彼が触ったり感じたりすることができると言われたら、見えないうという事を怖がらなくていい」と言われました。それまでは連れて行ってあげられない場所が多いと思つていたのですが、その言葉を聞いてから私は息子をどんな外に連れ出すようになりました。そして息子が外出が好きになっていき、いろんな経験を積んでいきました。その中でもピアノは息子が自分を表現する手段になっていったんです。音楽が好きだと感じたのは、生後8か月の時に耳がいいなと思つたのが始まりでした。同じ曲でもピアニストによる弾き方の違いが分かるようでした。それでも初めは音楽を習わせようという気持ちはなく、ただ視覚障害をもつている息子が生きていく上で何か一つでもいいから自分の好きなもの、それが見つかつたらいいなと思つていたくらいでした。そんなある日、私がジングルベルを鼻歌で歌つていたらそれをおもちゃのピアノで弾き始めたんです。それからというもの、私が数回歌うとすぐにピアノで弾けるようになっていきました。ピアノが好きならせつかくだから先生を探そうということになり、

先生には本格的に教えるわけではなく、曲を弾くのが好きだから楽しくやってほしいと伝えました。先生も承諾してくれ息子も遊びながら楽しくピアノを習えたと思えます。それからしばらくして5歳の時に彼がピアニストになりたいと思うきっかけがあつたんです。旅行先で息子がショッピンゲンセンターにあるピアノを弾きたいと言ひ、弾かせてもらうことになりました。そうしたところ、人が集まつてきて皆さんから拍手をいただき息子をハグしてくれたりしたのです。自分が弾いたピアノにより周りの人が喜んでくれたという事がとても嬉しかったみたいで、すごく誇らしげでした。もっともつとピアノをやりたいという気持ちが芽生えてきたようです。その後、1年生と5年生の時にピアノのコンクールで優勝し、そして息子を世界の舞台上に連れて行ってくれたのが佐渡裕さんです。佐渡さんは自分のコンサートによく息子を指名してくれました。息子もとても恵まれていて、中高生くらいから皆さんの前で演奏する機会が多くなりました。本番で演奏できたという事が彼にとっては良かったのだと思ひます。本番で成功しないと認めてもらえないので、海外のコンクールで優勝できたのは佐渡さんと一緒に演奏を積み重ねていったのが大きかったのではないかなと思ひます。20歳で優勝したクライバインコンクールでのVTRを見るときはまだに涙ぐんでしまひます。辛い時もありましたが、辛い時こそ今日一日頑張ろうという気持ちでいると少しは心が軽くなるのかなと思ひます。私は人間の持つている可能性のすごさを自分の子供から教わりました。これまでの人との出会い、ご縁に非常に感謝しております。

~~~~~

今回のセミナーで、いくつになつても障害を前向きに捉えていくことが大事だと感じました。とても勉強になるお話ばかりで全ての内容をお伝えしたかったのですが、誌面の都合上、割愛させていただきます。大部分も多くあることを心よりお詫び申し上げます。

広報委員会

## リーダーパワーアップ研修会

すみだ晴山苑 施設長 三 須 正



研修会会場の様子

1月20日・21日に開催されたリーダーパワーアップ研修は、久方ぶりの開催でもあり定員100名は早々に募集枠に達した。各事業所から管理者・主任等が参加し、法人の大きな期待を背負い2日間の対面研修とともに受講した。

講演Ⅰは、千日清副会長から当協会の活動説明に併せ、リーダーに求められる資質や考え方の基礎、人とのつながりの重要性について講演いただいた。

講演Ⅱの『チーム力を引き出す心理的安全構築』では、社会福祉法人三社会深大寺保育園の田中賢介園長が登壇され、心理的安全性を軸として自らの職場改革の経験を披露された。リーダー層の意識改革が、強い組織作りには必須であると痛感した。

講演Ⅲの『人材確保と定着』は社会福祉法人佑啓会の里見吉佑常務理事から、今日の学生の考え方と社会の変化に合わせた人材確保策・採用手法を、法人独自に考え・動くことの重要性が伝えられた。また採用後は其々職員に「色々な居場所がある」と感じられる環境作りが職員の定着施策であると報告された。

講演Ⅳは『外国人労働者を職場の仲間』と題し、社会福祉法人榎の実会在田創一総務部長とベニテズ・アマドールJr.デラクルーズ支援員の2人からご講演いただいた。外国人採用の経過をはじめ、ミスマッチの防止策や長期就業へ向けた資格取得支援が紹介された。外国人労働者への「自己実現のサポート」の実践は、職場全体へも影響力を与えるものであろう。

講演Ⅴは『管理者として考えること』をNPO法人みらい工房の河北丈施設長より講演いただいた。経験を踏まえたリーダー職の重要性を語られると同

時に自身の気持ち(心)のマネジメントが組織マネジメントに繋がることを強調されていた。

研修最後のグループ討議は、グループ毎に自主的・積極的な意見交換が行われた。本研修での気づきや普段からリーダーとしての想い・悩みの共有等が行われ発表された。他法人への質問には、今後の研修企画の参考とすべき内容も上っていた。

研修冒頭の挨拶で小林勉副会長は「この研修に参加し昼夜積極的に語り合うこと」を参加者に望まれていた。参加したリーダー職の皆さんが、貴重な情報・知識・人とのつながりを、得て持ち帰り生かすことを期待して研修の報告とさせていただきます。

### ●リーダーパワーアップ研修会を受講して

みのり福祉会 ピース 高橋 良 彰

令和7年1月20日(月)・21日(火)の2日間、施設長を補佐する者およびリーダー(課長、係長、主任)等を対象とした、令和6年度リーダーパワーアップ研修会に参加しました。

1日目、講演Ⅰでは、千日清氏(千葉県知的障害者福祉協会副会長 社会福祉法人久保学園理事長)による『千葉県知的障害者福祉協会 活動の歴史とこれから』というお話をいただきました。今日では、千葉県の福祉を支える重要なポジションに位置する同氏。先ずは、長年地域社会に貢献されてきたことや、これからの福祉を支えていく人材の育成に尽力されてきたことに、深く敬意を表します。社会の変化に対応し、福祉と共に歩んできた歴史は、これからの私たちにとって、大きな学びとなりました。

講演Ⅱは、田中賢介氏(社会福祉法人経営者協議会 東京都経営青年会会長 社会福祉法人三社会 深大寺保育園 園長)「チームの力を引き出す心理的安全構築」というお話でした。田中氏は、心理的安全性が担保された環境では、課題に対して新しいアイデアが生まれやすく、チーム全体の生産性や成果に繋

がる。また、仕事への満足度が高まり、離職率の低下も期待できると強調されました。職員一人一人が自ら考え、行動していくような環境を改善していくことが、リーダーの重要な責務であると改めて認識しました。

2日目の講演Ⅲは、里見吉佑氏(社会福祉法人佑啓会 常務理事)による「人材確保と定着」というお話でした。新卒採用に力を入れる佑啓会では、業務のDX化を推進し、若手職員が中心となってSNSや動画配信を活用した情報発信を行うなど、学生との共感や関心を深める活動を通じて、法人の魅力が効果的に伝えているという内容でした。特に、若手職員が主体的に取り組んでいる点が印象的で、大変魅力的な取り組みだと感じました。

講演Ⅳの在田創一氏(社会福祉法人榎の実会 総務部長)『外国人労働者を職場の仲間』というお話では、過疎化が進む地域において、200人以上の職員を必要とする法人が、外国人雇用という新たな取り組みを通じて人材確保に挑戦しているという事例に、大変興味を持ちました。全国的に、人材確保が大きな課題となっている昨今において、多様な人材の活用を模索する姿勢は、人手不足に悩む多くの法人にとって示唆に富むものと考えられます。このお話についても共感を覚えました。

講演Ⅴ、河北丈氏(NPO法人 みらい工房 施設長)『管理者として考えること』では、氏の時折ジョークを織り交ぜた柔らかな語り口が場を和ませ、終始リラックスしたムードが会場内を覆いました。この雰囲気づくり、講演Ⅱの田中氏にご講演いただいた「チームの力を引き出す心理的安全構築」にも通ずることかと感じました。氏は「心のマネジメント」と表現し、その大切さを強調しておられました。組織の課題を解決するためには、仕組みを整えることが不可欠ですが、それだけではなく、日々業務に尽力する職員の心に寄り添うことで、より良い組織へと発展させていくことができるのかも知れません。私自身も真似をしてやっつけようと思いました。

最後はグループ討議「日頃リーダーとして実践していること」「これからの運営・経営の在り方」「他法人への質問」「日頃の悩み」でした。今回の研修で異なる法人の皆様と共通の課題を共有できたことは、大きな収穫でした。法人は違っても目指す方向性は皆同じです。リーダーとは、法人の理念に基づき、次世代を担う人材を導く、重要な役割を担っています。今後も横の繋がりを深め、共に課題解決に取り組んでいきたいと考えています。

## 管理者・サービス管理責任者研修会

袖ヶ浦学園 平島 吉隆



研修会会場の様子

グループホームに関わる管理者・サービス管理責任者等を対象として、令和6年度の報酬改定、運営基準の変更など、新たに求められることが増え、各事業者の大きな負担となっている制度上の変更点を学ぶこと、そして、一段と厳しさを増す人材確保について、先進的に取り組みを行っている事業所の実践を共有することを目的として、39法人63名の方にご参加いただき研修会を開催させていただきました。

前半の部では、千葉県健康福祉部障害福祉事業課法人指導班 鎮守智也主事より「共同生活援助事業運営における制度説明」と題し、報酬改定、運営基準の制度上の変更点を含めた行政説明がありました。また、事前に参加者から頂いておりました質問にもお答えいただきました。

後半の部では、人材確保に向けて先進的な取り組みを実践されておられる2法人から発表がありました。

最初の発表は、社会福祉法人平野の里あやめ寮 施設長 総務・人事部長 杉村健氏より「まだまだでき

る…あきらめない!!イノベーションと一緒に…」と題し、求職者のニーズと実際の職場のミスマッチを防ぐための取り組みや、インターシップ体験者の思い出になる体験の企画や親御さんにも応援してもらえる仕組みづくりといった具体的な内容の実践報告がありました。「誰でも知っているイキイキした法人として認識されたい法人になる。」を採用活動の目標に掲げて実施されておられ、法人理念の具現化のためのブランディングの大切さを知る機会になりました。

次の発表は、社会福祉法人榎の実会 総務部長 在田創一氏より「特定技能実習生とともに働く」と題し、特定技能実習生を採用するに至った背景、特定技能実習生の制度説明があり、その後、実際に榎の実会に勤務されている2名の職員さんも登壇してのディスカッションでは、受け入れ事業所と特定技能実習生の生の声、ご苦労を聞くことができました。実習生の充実したプライベート写真も紹介され、そのための生活の土台となる「日本の方と同じ処遇でなければならぬ。」という言葉がとて印象に残りました。今後、地域支援部会では、千葉県における共同生活援助事業の充実に向け定期的な研修を開催したいと思えます。

## 管理者・サービス管理責任者研修会に参加して

榎の里さくらの家 加茂 正和

去る令和6年12月12日、千葉県教育会館にて本研修会が開催されました。会の趣旨は「令和6年度報酬改定を受け、事業運営に求められる制度上の変更点を学ぶ。また、昨今における事業運営で問題となっている人材確保について有識者及び先進的な取り組みを行っている事業者の実践を共有し、千葉県における共同生活援助事業の更なる充実を図る事」でした。研修の内容は大変に興味深いもので、当日は県内より63名と多くの参加者があり、その関心の

高さが垣間見れました。

始めの講義は、「共同生活援助における制度説明」で、千葉県健康福祉部障害福祉事業課法人指導班 主事の鎮守智也氏より詳しく紹介されました。報酬改定を受けての注意点として、BCPの関連事項や事業の情報公表。また、地域連携推進会議の具体的な進め方など、令和7年度からの実施に向け大変に参考になる内容でした。

次の講義は人材確保の実践報告として、「まだまだできる…あきらめない!!イノベーションと一緒に！」と題し、社会福祉法人平野の里あやめ寮施設長 総務人事部長 杉村健氏から様々な取り組みが紹介されました。何よりも地域との繋がりを大切にされており、新規採用の職員を中心に積極的に地域の商店等に訪問している。また、職員の募集や採用において、更には利用者支援でもSNSやICTの活用を推進している事が特に新卒の人材確保には有効であると、話されました。また、インターシップ（職場体験）にて、夜勤を経験してもらった等の実践は、正しくこれからのイノベーションが感じられる内容でした。次に実践報告として、「外国人人材の活用・特定技能実習生と共に働く」と題し、社会福祉法人榎の実会の総務部長在田創一氏に加え、現場で働くフィリピン出身の男性Jさんとベトナム出身の女性Tさんも参加しての講義でした。流暢な日本語で明るく楽しそうにお話しするお二人の姿が印象的でした。香取郡多古町にある榎の実会は「田舎町の施設における人材難」の対策として、2年前から始めた取り組みとの事で現在は5人の外国人職員を雇用しており、順調である。そして彼らは利用者に対して常に真摯で真面目に接しており、そうした仕事ぶりは他の日本人職員の意識を高める事へも繋がっているとありました。

終わりに、今回の研修会は、私自身が現場での直近課題の対応に役立つ多くの学びがありました。関係者の皆さんに感謝します。有難うございました。

支援スタッフ  
から見た!

# わが施設の自慢・アピールポイント④7

平成20年度から46回にわたり109の“プチ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今回は3つの“プチ自慢”です!

## 印旛・山武ブロック・社会福祉法人印旛福祉会・いんば学舎草深

### ～すべての人が共にある生活創り～

いんば学舎・草深は  
県北西部印西市にある  
生活介護事業所です。  
1999年4月に開設し、  
今年の4月で27年目を  
迎えます。印西市で  
はショッピングモール  
のほか、住宅の建設ラ



新緑溢れる草深の外観

ッシュがあり、開設当初とは周辺環境が大きく変化して  
いますが、開発エリアからやや外れているため、幸いな  
ことに自然豊かな環境の中で、日々のびのびと生活を送  
っております。さて、そのような私たちの自慢は…

#### ①こだわりのある作業

農作業を中心とした生活スタイルは開設当初から変え  
ずに、2反以上の畑で野菜を育て、規格外の野菜を鶏の  
エサとし、糞を肥料とする【循環型農業】を続けておりま  
す。鶏たちは一般的なゲージ飼いではなく、鶏舎内を自由  
に行き来することができる平飼いという方法で飼育して  
いるため、ストレスが少なく健康で安全な卵であること  
が特徴です。床材には近隣の方からいただいたもみ殻



餌やり当番は鶏の  
健康管理において  
欠かせない仕事



一部修繕したウッドデッキの廃材を用いて皆で作成した  
オブジェ

と糞を敷き…といった具合に本誌面では語りつくせぬほ  
ど、各活動に対してこだわりを持って取り組んでいます。

#### ②多岐にわたる活動

野菜や卵を地域の直売所に納品する等日々の活動の他、  
夏には法人全体で地引網を曳き、海の恵みを味わうイベ  
ントや近隣の方と収穫の喜びを分かち合う秋の収穫祭、  
ミュージックケアや陶芸、アートなど芸術活動も行っ  
ており、パラエティーに富んだ活動を展開しているのも特  
徴です。このように様々な活動を通してそれぞれの得意  
・関心を活かし、補い合い、お互いの存在を認め合う  
ことで、共にある生活創りを実践しています。

主任 伊藤 雄介

## 安房・君津・市原ブロック・社会福祉法人嬉泉会・袖ヶ浦市福祉作業所 うぐいす園

### ～もちつき大会～

うぐいす園は、袖ヶ  
浦市が昭和41年(19  
67年)に設立、運営。  
その後平成27年より  
袖ヶ浦市からの指定管  
理を受託し、社会福祉  
法人嬉泉にて、就労継  
続支援B型事業所およ  
び生活介護事業の運営  
をしています。プチ自  
慢ということで、1月  
に開催された毎年恒  
例の「もちつき大会」  
についてご紹介させ  
て頂きます。このも  
ちつき大会は、例年  
ご家族の皆様が主体  
となり行っています。



施設の外観

もちつき当日の朝は、「おはようございます!」と元  
気あふれる挨拶と共に、ご家族が次々とお手伝いに来  
てくださいます。お父様方は、白い蒸気が立ち込めるテ  
ラスで臼や杵の準備、お母様方は、食堂でもち米や豚汁  
の食材切りなど手際よく準備が進んでいきます。準備が整  
い、皆でもち米をこねる作業を見守っていると、「ヨイ



お餅で昼食の準備



もちつきの様子

ショ!ヨイショ!」とつき手と返し手の息の合った餅つ  
きが始まります。お父様方は、一人ひとりに優しく声を  
掛けながら付き添って手の補助をさせていただきます。この  
日の昼食は、お餅とお母様方お手製の豚汁です。色々な種  
類のお餅が並び、食後には皆さん満腹の笑顔でした。

新しい年を迎え、もちつき大会という時間を共に過  
すことで、ご家族の大きな応援があることを利用  
者さん、職員、共に実感し、この支えを基に力強く進  
んでいける、そんな気持ちになる大切な行事です。

サービス管理責任者 吉武 舞子

# 夷隅・長生ブロック・社会福祉法人土穂会・ピア宮敷

## ～地域とのつながり～

当法人の所在するいすみ市は、住みたい田舎ランキングで首都圏エリア9年連続1位（宝島社『田舎暮らしの本』）とされる魅力のある街です。主産業はいすみ米を代表とする農業ですが、今回は当法人が2019年から取り組み始めた農業を通じた地域との連携した取り組み【農福連携】についてご紹介させていただきます。



菜花ガールズ集合写真



厨房作業



米農家種蒔き

事業継承という形で始まった菜花栽培。1.3haほどの圃場を無償でお借りし、地域のおばあちゃん達（通称：菜花ガールズ）と一緒に食用菜花の栽培をしています。JAや農業事務所などからも沢山のアドバイスをいただき、6シーズン目を迎えました。

菜花栽培を皮切りに、地域とのかかわりも徐々に増えていきました。梨組合との剪定枝拾いや花粉採取、お米農家での種蒔き作業、レタス農家との定植作業など地域に出て活動する機会が増えていきます。その他にもドレッシングやソースの委託製造など様々な農福連携の形が広がっています。

様々な農福連携の形を実践していく中で農福連携等広

援コンソーシアム主催の「ノウフク・アワード2022」にて、「フレッシュ賞」を受賞させていただきました。私たちの取り組みが評価されたことを利用者の皆様と喜び合いました。支援員・利用者さんの頑張りは元より、地域の皆様のご理解・ご協力のおかげと感謝しております。

農福連携を通じて、地域とのつながりの大切さを実感しております。いすみ市は住みたい田舎ランキング上位の一方で、人口が減少の一途をたどっており、高齢化など地域の抱える問題は数多く、福祉施設だけでは、どうにもできないこともあるのが実情です。でも、その状況だからこそ、地域と協力すればうまくいくと信じています。win-winの関係を築くことにより、地域と共に成長していければと思います。

サービス管理責任者 伊東 孝浩

※宝島社発行「田舎暮らしの本」2025年2月号「2025年版 住みたい田舎ベストランキング」が発表され、いすみ市は「総合部門」「若者世代・単身者部門」「子育て世代部門」の部門で首都圏エリア 第1位（首都圏エリア9年連続1位）

### 第52回 開催報告

#### 南部地区

会場／イオンモール木更津  
開催日／令和7年2月14日(金)～16日(日)  
売上／約108万円

#### 中部地区

会場／ユニモちはら台  
開催日／令和7年2月14日(金)～16日(日)  
売上／約115万円

#### 北部地区

会場／イオンモール八千代緑が丘  
開催日／令和7年4月22日(火)～23日(水)

2月14日から16日までの3日間、中部地区は「ユニモちはら台」にて、南部地区は「イオンモール木更津」にてそれぞれ開催されました。

両地区ともに開店直後からレジ前は長蛇の列。特に食品関係の売れ行きが好調で会場は夕方近くまで賑わっていました。購入して頂いた多くの方に、知的障害を有している方と障害者を支援している施設への理解と関心を持っていただけたと思います。

お客様からは「毎年、楽しみにしています。」「この事業所で作った商品は美味しいのよ。」と温かいお言葉を頂きました。

これも開催するにあたり、ひとえに例年ご賛同頂けるユニモ様、イオン様をはじめ、各施設関係者のご協力のおかげです。心から感謝を申し上げるとともに、今後ともよろしくお願ひします。



南部地区会場（イオンモール木更津）

### 第52回「手をつなぐ作品展」を終えて

# 千葉知協トピックス

スポーツ文化委員会 藤崎 明

## 第28回千葉ゆうあいピック駅伝大会

令和7年1月25日(土)、第28回千葉ゆうあいピック駅伝(千葉県知的障害者陸上競技協会等主催、本協会等後援)が青葉の森スポーツプラザ陸上競技場(千葉市)で開催されました。参加は39チーム、競技者数はロードレースの部男女24名を含め、計182名の参加がありました。

本大会はこれまで会場だった千葉県総合スポーツセンター陸上競技場が改修工事のため、代替会場として青葉の森になりました。ハーフ男子は6区間19・61kmでしたが、6区間14・61kmと大幅に短くなりスピードレースとなりました。



ハーフの部スタート～青葉の森で

1区(3・79km)では、ひかりAC・安西選手がスタート直後からぶつちぎりで先頭を走りましたが、慣れないコースのためか周回ミスをし、まさかの4位に沈みました。この間隙を縫って市川大野高等学校園・伊藤選手が区間賞を獲得しました。区間2位は光の村・村上選手でした。2区では市立船橋特支・柴山選手が区間賞を獲得しました。ふる里学舎・片岡選手が区間2位ながらチームを2番目に押し上げ、先頭市川大野チームにあと42

秒に迫りました。3区は市川大野・室橋選手が区間賞で逃げ切りを図りましたが、4区ふる里学舎・落合龍樹選手、5区落合龍馬選手と連続区間賞で猛然と先頭と差を詰めていきました。優勝争いは両チームのアンカー勝負となり、ここでもふる里学舎和田選手が区間賞を獲得し、8秒差あと一息というところまで追い詰めました。優勝は1区から先頭を守った市川大野高等学校園でした。3位は光の村チームでした。それ以外の各部門の結果は次の通りです。

クォーター(5区間7・4km)男子Ⅱ優勝・ダイバーシティ、準優勝・流山高等学校園A、第3位・流山高等学校園B。同女子Ⅱ出場なし。エイズ(3区間3・66km)男子Ⅱ優勝・ふる里学舎A、準優勝・市川大野高等学校園、第3位・ふる里学舎B。同女子Ⅱ優勝・市川大野高等学校園、準優勝・富里福葉苑、第3位・不二学園。同壮年男子Ⅱ優勝・富里福葉苑A、準優勝・富里福葉苑B、3位・大久保学園B。同壮年女子Ⅱ優勝・ひかりAC(ひかり学園)。

## 第33回さわやか芸能発表会

令和6年12月10日(火)、青葉の森公園芸術文化ホール(千葉市中央区)にてさわやか芸能発表会を開催しました。千葉県文化会館が改装工事のため、昨年到现在は青葉の森での開催となりました。

舞台発表では、8団体が出演し、日頃から練習を重ねた演目が次々と披露されました。審査員は7名で施設関係者が4名、敬愛短大の学生3名で構成されていました。舞台発表後の審査も舞台同様白熱しましたが、厳正なる審査の結果、金賞(最優秀賞)は青松学園の演目「じゃんぱりーミッキー(ダンス)」に決まりました。銀賞(優秀賞)はビーアンピシヤス、ジョイサポート千葉、八街わらの里の3団体でした。そして銅賞は、かしの木園、日吉厚生園、でい・さくさべ、ひかり学園の皆様でした。展示部門は6団体が、展示会場の同ホール・ホワ

イエに力作が勢ぞろいしました。舞台発表同様審査員たちはハイレベルな作品に頭を悩まされながら、金賞は「松ぼっくりツリー」を制作した、たかね園が獲得しました。僅差だったようですが、銀賞はひかり学園アネックス、青松学園、豊四季光風園の3団体が受賞しました。銅賞は作山更生園、小池更生園でした。



金賞 青松学園～舞台発表



金賞 たかね園～展示発表

ゲストにはNPO法人ひこうき雲「ホライズンwithh即興円舞こころ舞踊団」の皆様にご出演いただきました。ホライズンは昨年が続いての出演でしたが、昨年と趣を変えて熱演いただき、観客の皆様も舞台が上がり踊るなど大変盛り上がりしました。

次回は改修工事が終了した千葉県文化会館に戻って、12月2日(火)に実施予定です。

## 事務局便り

事務局長 千日 清

年度末、締めくりと新たなチャレンジ。振り返ることも大切と、自分に言い聞かせて。来年度もよろしくお願いたします。

## 編集後記

おおし園 成川 真

私は編集に携わっている関係で「あいご」を皆様にお届けする前に原稿を読む事ができます。協会が制度改変や人材確保など多くの事業者が抱える課題に対して、研修や集まりを通して真摯に迅速に対応しようとする努力されている事を知りました。「あいご」を通して知って頂き、それらに多くの事業所の方が参加して頂ければ嬉しく思います。